平成 28 年 9 月 16 日
13:30～
恵那

木づかいガイドライン作成資料について

1　木づかいガイドラインの意図していること

2　木づかいガイドライン作成依頼者について

3　その他

1　「木づかいガイドライン」の意図していること

① 市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと

② 現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取り組みを「見える化」すること

③ 「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること「繋ぐ」ことがとても大切で、ここに流域で取り組む市民活動化の意義がある

④ その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しみを伝え、共感と活動を呼び起こすこと

⑤ 木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと。

⑥ 山村担い手事例集にあるような様々な地域の様々な山村・里山活動家が「木づかい推進」というテーマで「繋がり」、それぞれが主役になって「木づかいネット網」として連携し、すべての年代層を対象にした「木づかい」の原体験を与えること

⑦ 「木づかいガイドライン」を手に取ると、すぐに行動したくなるような「さあ～しよう」という市民目線に沿った提案とすること

⑧ 日本人として木の文化を身近なものにすること

2　木づかいガイドライン作成依頼者

①業界編　根羽村森林組合　矢作川流域で木づかい推進を先導し、幼年時から社会人に至るまで、人生のあらゆる時間と場所で木づかいの場を創造する

NO	区分	作成依頼者	さあ～しよう	想定対象
1	業界	根羽村森林組合	木っころで遊ぼう	ア
2			森を歩いて川で遊ぼう	アイ
3			積木で遊ぼう	イ
4			木はがきを書いてみよう	イ
5			弓矢・木のペンダント・表札を作ろう	イ
6			木の科学実験にチャレンジしよう	イ
7			動く木のおもちゃを楽しもう	イウエオ
8			地下足袋と鉈を購入して、間伐や山仕事をやってみよう	イウエオ
9			様々な木工作にチャレンジしよう	イウエオ
10			流域ものさしを作って「私の流域物語」を書いてみよう	イウエオ
11			輪っぱづくりにチャレンジしよう	イウエオ
12			木の器を使ったお弁当販売をしてみよう	ウエ
13			林業の搬出現場を見学しよう	ウエオ
14			製材工場を見学しよう	ウエオ
15			地域材の住まいを見学しよう	ウエオ
16			森林をテーマにした研究にチャレンジしよう	エ
17			立木のヤング係数を調べよう	エ
18			物置をセルフビルドしよう	エオ
19			小屋をセルフビルドしよう	エオ
20			里山と都市公園でプレイスメイキング(木の魅力によって人々を笑顔にする場所の力づくり)にチャレンジしよう	エオ
21			地域材の家・建物を訪ねて木の魅力に触れよう	エオ
22			住まいの性能や将来の自分の家を考えてみよう	エオ
23			地域の材で木の家を建ててくれる工務店を訪ねよう	エオ
24			自分の家を地域の木を使って建てよう	エオ

注) 想定対象及び事例

・原体験を与えたいメインの年代層　(原体験の大切さはH25ブレーンストーミングより)

・ア幼年　イ小・中　ウ高校　エ大学　オ社会人(H26ライフステージ別アタック概念より)

・様々な事例はH27　木づかいライブ　スギダラキャラバン等の実績より

②市民編　山村担い手事例集からの木づかい推進提案

集	N0	取り上げられた方	想定　さあ～しよう
Ⅰ	1	根羽村森林組合	前記のとおり
	2	ねば杉っこ餅	「根羽のはこいり娘」弁当を楽しもう 自家制しいたけ栽培にチャレンジしよう
	3	根羽村猟友会	木を使って獣を捕獲してみよう
	4	恵南森林組合	地域の森づくりを学ぼう
	5	串原林業	自分たちの力で林業にチャレンジしよう オーダーメイドの山づくりをしよう
	6	NPO 法人　奥矢作森林塾	炭焼き、河川・公園環境整備、古民家リフォーム、里山体験にチャレンジしよう
	7	NPO 法人　福寿の里自然倶楽部	エコツーリズム　アライダシ原生林を訪ねよう　教育体験プログラムをつくろう
	8	矢作川水系森林ボランティア協議会	森の健康診断を学び実践しよう
	9	とよた森林学校	これからの森林活用と林業を学び山仕事にチャレンジしよう
	10	とよた森林学校 OB 会	親子で自然観察会に参加してみよう
	11	とよた都市農山村交流ネットワーク	山里の知恵を学ぶ様々な農山村体験にチャレンジしてみよう
	12	豊森なりわい塾	皆で森林と里山について語り合い、里山生活を実践して現代の百姓を目指そう
	13	(株) M-easy	日本再発信、若者よ田舎を目指そうプロジェクトに参加しよう
	14	旭木の駅プロジェクト	木の駅プロジェクトに参加しよう
	15	千年持続学校	自然エネルギーや大工技術を学びながら住まいをつくろう
	16	おむすび通貨	子ども夢の商店街で木と物々交換してみよう
	17	Green mama	子どもは地域で育てる方針のもと、木育を考えてみよう
	18	農業生産法人　みどりの里	
	19	NPO 法人　中部猟踊会・三州マタギ屋	
	20	岡崎森林組合	森の魅力とそれを発揮させる森づくりの意義を考えよう
	21	おおだの森保護事業者会	おおだの森を皆の力で名勝地にしよう
Ⅱ	22	木の駅ねばりん実行委員会	木の駅プロジェクトに参加して村のおじいとおばあの心と体を温めよう

	23	きくの会	木型を使って「からすみ」をつくろう
	24	山のハム工房　ゴーバル	炭火でゆっくり乾燥させてサクラの薪でいぶすハムづくりを学ぼう
	25	三宅林業	三宅林業の山づくり、木づかいの思想を学ぼう
	26	たけうち牧場	ログハウスづくりと地域の景観植栽を学ぼう　価格競争しないフェアトレードを考えょ得
	27	アンティマキ	野山で採取した草木で染物やリースを作ろう　田舎暮らしを語ろう
	28	てくてく農園	木や農産物の「おすそわけ」を考えよう ゲストハウスや空き家活用を考えよう
	29	あさひ若者会	ふるさと探訪フィールドワークで地域の魅力を感じてみよう
	30	あすけ里山ユースホステル	自然観察イベント・里山活動に参加して田舎の豊かさを感じてみよう
	31	新盛里山耕流塾	次世代を担う子どもたちに美しい里山を引き継ごう
	32	近藤しいたけ園	原木しいたけ栽培を学び実践してみよう
	33	こいけやクリエイト	里山で魅力的な活動をされている方々の様々な情報を入手しよう
	34	アグロ・プエルタ	畑で使える東屋づくり考えよう
	35	とよたプレーパークの会	子どもが主役の公園をつくろう 中高生によるプレイスメイキングを実行しよう
	36	NPO 法人　矢作川森林塾	矢作川の竹林伐採による景観整備と河畔林再生に取り組もう　都市部に都市林をつくろう
	37	矢作川水族館	川遊びイベントに参加して川の楽しさを見つけよう
	38	じさんじょの会	地域に残っている茅葺屋敷を整備しよう 地域の良さを伝えて移住者を引き寄せよう
	39	額田林業クラブ	森林所有者が実践する山づくりと、その次世代と行う地域材活用の事例を学びに行こう
	40	宮ザキ園	皆で三河紅茶街道をつくろう
	41	東幡豆漁業協同組合	海の恵みや浜辺の暮らしの素晴らしさを体験しよう　山から海へ砂を運ぼう
	42	佐久島 Oyaoya café もんべまるけ	薪づくり、小屋づくり、野菜も作って自分の

			力で暮らしてみよう　半農半Ｘを語ろう
Ⅲ	43	飯伊森林組合平谷事務所	森林施業プランナーの仕事を学ぼう 観光間伐にチャレンジしよう
	44	天下杉	木を使った手品や喜劇の基本を学ぼう 人々の顔を笑顔にするツボを学ぼう
	45	夕立山森林塾	安全で科学的な山仕事の楽しさを学ぼう
	46	おいでん・さんそんセンター	林業を生業にする「半農半林塾」にチャレンジしよう　田舎だから住みたいという社会をつくろう
	47	野外保育とよた　森のたまご	森の中で一日を過ごす「森のようちえん」を様々な場所で展開しよう　子どもも大人も一緒に成長しよう
	48	農村舞台アートプロジェクト実行委員会	豊田市の里山に存在している農村舞台をもっと活用しよう
	49	稲武山里体験推進協議会	自然体験、工芸体験、味覚体験等の魅力的体験を発掘して、里山の素敵な時間を楽しもう
	50	老人福祉センターぬくもりの里	やさしい美術作戦事業を発展させよう
	51	あさひ森の健康診断	子どもたちと行う地域住民主体の森の健康診断を広めよう　天然林も調査してみよう
	52	あさひ薪づくり研究会	自ら付加価値をつけて薪販売による収入を得よう
	53	有間竹林愛護会	矢作川の河畔の景観を良くし、散策ができる遊歩道をつくろう　たけのこ採りにチャレンジしよう
	54	あすけ聞き書き隊	お年寄りに昔の木づかいを聞いてみよう
	55	山里センチメンツ	
	56	しもやま再来るプロジェクト	自転車ラックや関連企画と景観整備で地域の魅力を高めよう
	57	コレカラ商店・コレカラ農園・コレカラご飯	人がやってもらいたいことをやってみようというライフスタイルで自立しよう
	58	First-hand	国産無垢材の家具と暮らしの道具に会いにいこう　人と木をつなげるプロジェクトを学ぼう
	59	額田木の駅プロジェクト	木の駅プロジェクトで山も地域も元気になろう
	60	日近太鼓	木の打楽器、太鼓をもっと楽しもう
	61	烏川ホタル保存会	烏川ホタルの里を皆で管理してホタルを楽しもう

	62	岡森フォレスターズ	山の自然や山仕事、山里暮らしの日常明るく歌おう　しんどい仕事の中でも楽しくやろうぜソウルを広めよう
	63	蒲郡市漁場環境保全協議会	豊かな魚場づくりを山からの視点で考えよう
	64	島を美しくつくる会	自然のままとアートの世界の木づかいを考えよう

「流域ものさし」を懇談会内でどのように展開したらよいか

まず、基本的な考え方は、次のとおりです。
キーワードは「繋がる」です。
「流域ものさし」は様々な木の組木で流域が繋がっています、私の想いで相手と繋がっています、という感覚です。

「流域ものさし」は、こうした「繋げる」アイテムです。繋がった人どうしで新たな活動が生まれるのが理想です。
　ということで、各部会合同で「流域ものさし」を作ってもらうのがあらゆる意味でひとつの連携のきっかけになるかもしれません。
　そこで、各人「私の流域物語」を書いて、まず流域内で交換して「繋ぐ」ということを実践できればと思います。

それも、どうせなら皆が各人の流域物語を読めるようにすると、各人の想いが伝わり、とても良いのでは、と思います。

連携テーマは木づかい、土砂、ごみですが、今までの各部会の活動実績を含め、改めて矢作川流域でそれらのテーマの理想とする「形」を提案する、ということでよいような気がします。

その理想提案に向けて、個人、業界、行政、研究機関等が、どれだけその重要性を理解して、統一性をもって動けるか、だと思います。

なので、

例えば木づかいなら、まず実践を通して皆さんの記憶に残ることを意識してきました。意図的で理想的な活動で記憶に残るということは、共感を得られたということだと思います。

　その「共感」もキーワードで、この取り組みは「共感が得られた」、という感覚をとても大切にしてきました。なぜなら、その共感は市町村の予算化等、持続可能な活動の資金源となり、経済活動の一環として定着させられる可能性があるからです。

それで木づかいですが

①普遍的に必ず流域のどこかで森の民等が「木づかいライブ　スギダラキャラバン」的な体験等を行い、市民に木の魅力と楽しさを発信していること(市町村での予算化も理想)

②その地域で地元と結びついた小中学生等を対象とした木育活動が行われていること(市町村での予算化も理想)

③積極的に地域に地域の材料を用いた木造公共施設等を作っていること

④地元製材工場等と結びついて、小屋、物置き、暮らしの中で使える木のアイテム等が流域の木で作られ、また普通に生活の中で使われること

⑤そんな取り組みを「木づかいガイドライン」として「さあ～しよう」の形で見える化して、誰でも実践できるようにすること

⑥これらの取り組みを通し、最終的に流域内の山村等に定住して農林業や木づかい等を担う若者を生み出すこと

⑦そんな若者が流域連携を通して農山村での魅力的なライフスタイルを自ら発信し、農山村を楽しく元気あふれる空間に導いていくこと

という方向性を流域の「共通認識」とし、この認識によって流域内の個々が「繋がり」、個々のそれぞれの立場で方向性に沿った活動が実践できればよいのではないでしょうか。

山川海部会で繋がるアイテムは何でしょうか。森と川と魚と流れのアイテム(根羽村の根羽村里山プロジェクトのきれいな水のアイテム＋森＋イワナ＋アマゴ＋アユ＋海＋貝等の各一体的なアイテム)でしょうか。森、アユ等は木型で作成、水はアクリル等で作成したら面白いですね。予算化してチャレンジしてみますか。

さて、話が脱線しましたが、流域ものさしに関する展開は次のようなことをイメージしています。

「流域ものさし」の今後の展開

①「流域にある木を使ってものさし」をつくれる、ということを知ってもらう

②それに個人の想いを託して、自分の好きな場所や出来事等を紹介する「私の流域物語」を書くことによって、魅力的な流域の概念を個人が持つ

③流域ものさしと流域物語をセットにして、他流域の方と交換することよって、他流域と「繋げる」ことがポイントなので、皆のメッセージをまとめて

見えるようにストックする。例えば、今村の「私の流域物語」をストックしておいて、全国どの流域にも発信できるようにする。

④そのメッセージを他流域、例えば天竜川の流域の方と交換する。

⑤流域内でも同じで、川部会、海部会の人たちに「流域ものさし」と「私の流域物語」を作成してもらい、それを山部会の人たちと交換する。

⑥その時のポイントとして、グループ内で交換を実践するならその中で「私の流域物語」をオープンにすると良いと思います。